



TITLE:

伊東光晴 教授 略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

伊東光晴 教授 略歴・著作目録. 經濟論叢 1990, 146(1): 149-160

ISSUE DATE:

1990-07

URL:

<https://doi.org/10.14989/44746>

RIGHT:

經濟論叢

第146卷 第1号

伊東光晴教授記念號

献 辞	菊 池 光 造	
中国農村地域における電気通信の発展	山 田 浩 之	
	西 村 周 三	
	直 江 重 彦	1
ソ連の石炭産業の再編	大 津 定 美	17
費用便益分析の厚生経済学的基礎	岡 敏 弘	35
A. セン潜在能力の経済学とケインズ革命	池 上 惇	55
現代の産業システムと情報ネットワーク	浅 沼 萬 里	74
メンガー『経済学原理』の成立	八 木 紀一郎	97
「産業構造」と価格分析	瀬地山 敏	124

伊東光晴 教授 略歴・著作目録

平成2年7月

京都大學經濟學會

伊東光晴 教授 略歴

1927 (昭和2年) 9月11日	生まれる
1951 (昭和26年) 3月	東京商科大学 (現 一橋大学) 卒業
1954 (昭和29年) 3月	東京商科大学 (現 一橋大学) 特別研究生 (第1期生) 修了
1956 (昭和31年) 3月	東京商科大学 (現 一橋大学) 特別研究生 (第2期生) 修了
1956 (昭和31年) 4月	東京外国語大学講師
1961 (昭和36年) 4月	東京外国語大学助教授 (外国語学部)
1967 (昭和42年) 4月	東京外国語大学教授 (外国語学部) (1970年3月まで)
1967 (昭和42年)	「経済政策における保守と革新」によって第2回「吉野作造賞」受賞
1970 (昭和45年) 4月	法政大学非常勤講師
1971 (昭和46年) 7月	法政大学教授 (経済学部)
1977 (昭和52年) 4月	千葉大学教授 (人文学部)
1978 (昭和53年)	理論経済学会理事 (1983年まで)
1980 (昭和55年) 4月	千葉大学評議員 (1981年4月14日まで)
1981 (昭和56年) 4月	千葉大学教授 (法経学部)
1981 (昭和56年) 4月	千葉大学評議員 (1983年4月13日まで)
1984 (昭和59年)	「交通経済理論と政策への寄与」により「交通文化功労賞」(運輸大臣) 受賞
1985 (昭和60年) 4月	京都大学教授 (経済学部) (1987年3月31日まで千葉大学教授併任)
1985 (昭和60年)	経済学史学会幹事
1986 (昭和61年)	経済政策学会常任理事
1988 (昭和63年) 1月	京都大学評議員 (1990年1月10日まで)
1990 (平成2年) 1月	京都大学経済学部長
1990 (平成2年) 1月	京都大学大学院経済学研究科長

伊東光晴 教授 著作目録

著書・共著

ケインズ	岩 波 書 店	1962年4月
大量消費時代	河 出 書 房	1964年4月
コンメンタール・ケインズ一般理論（宮崎義一との共著）	日 本 評 論 社	1964年10月
近代価格理論の構造	新 評 論 社	1965年6月
新しいインフレーション	河 出 書 房	1966年1月
経済学のすすめ（佐藤金三郎との共著）	筑 摩 書 房	1968年5月
日本産業の再編成（近藤完一との共著）	朝 日 新 聞 社	1970年9月
保守と革新の日本的構造	筑 摩 書 房	1970年12月
現代の資本主義	筑 摩 書 房	1971年3月
生活のなかの経済学	朝 日 新 聞 社	1972年4月
現代経済を考える	岩 波 書 店	1973年4月
生活のなかの経済学（講談社学術文庫）	講 談 社	1976年8月
日本の経済風土（三戸公，西山忠範，平田清明，飯沼二郎，杉岡碩夫，松下圭一との対談集）	日 本 評 論 社	1978年12月
行 革	岩 波 書 店	1982年8月
ケインズ人類の知的遺産（浅野米一，水田洋，青木達彦との共著）	講 談 社	1983年6月
経済学は現実にくたえうるか	岩 波 書 店	1984年5月
国鉄を考える（井上ひさしとの対談）	岩 波 書 店	1986年3月
転換期の日本経済	日本放送出版協会	1986年10月
経済戯評 現実の中の経済学	岩 波 書 店	1987年2月
技術革命時代の日本	岩 波 書 店	1989年12月

編著・共編等

ケインズ経済学 ケインズ理論の擁護 ケインズ「一般理論」30年（新飯田宏，新野幸次郎，中内恒夫，山田克己との座談会，司会担当）	東洋経済新報社	1967年4月
講座「現代人の思想」11 変貌する資本主義（相良龍之介との共編） 解説・変貌する資本主義 静かなるインフレーション	平 凡 社	1967年6月

同12 明日の産業社会（相良龍之介との共編） 比較経済体制論の一視角	同 上	1968年7月
寡占経済論 理論・実務編（新野幸次郎との共編） 第2章 I 序説	有 斐 閣	1970年11月
“世界の名著” ケインズ・ハロッド （宮崎義一との共編） ケインズの思想と理論	中央公論社	1971年7月
戦後日本思想体系8 経済の思想（長幸男との共編） 戦後経済の思想（長幸男との対談）	筑 摩 書 房	1971年9月
現代都市政策論 I—XII（篠原一，松下圭一，宮本憲一との共編） 日本の都市問題と現代資本主義（I 都市政策の基礎） 都市経営における効率と平等（IV 都市の経営） 公営企業における公共料金の決定（同上） 日本経済の集中と分散（華山謙との共著）（XI都市政策の展望）	岩 波 書 店	1972—73年 1972年11月 1973年3月 同 上 1973年10月
経済思想の事典（住谷一彦との共編）	有 斐 閣	1975年
比較企業制シリーズ 世界の企業 1—5（石川博友，植草益との共編） 日本の企業社会と経営 5（国際企業社会と日本）	筑 摩 書 房	1975—76年 1976年4月
戦後産業史への証言 1 産業政策（監修）	毎日新聞社	1977年11月
地方自治の潮流 現代地方自治に課せられているもの—地方自治の新しい流れ	学 陽 書 房	1979年3月
現代資本主義—その理論と現状（森恒夫との共編） 宮崎経済学について（真実一男，笹原昭五との座談会）	日 本 評 論 社	1980年1月
現代経済学—その現状と展望（新飯田宏との共編） いわゆる新古典派経済学の基礎前提批判	日 本 評 論 社	1980年7月
地方財政の再生と経営 地域経営の論理と課題	学 陽 書 房	1980年11月

論 文

循環と均衡	「恐慌」河 出 書 房	1952年7月
景気循環論における lag theory と antinomy theory —ヒックス理論とハ ロッド理論	一 橋 論 叢 28巻5号	1953年5月
ケインズ・コンメンタール（宮崎義一との共著）		
1 ケインズ理解の焦点	経済セミナー No. 29	1959年4月
2 古典派雇用論の公準	経済セミナー No. 30	1959年5月
3 古典派公準の批判	経済セミナー No. 31	1959年6月
4 有効需要の原理	経済セミナー No. 32	1959年7月
5 賃金単位と労働単位	経済セミナー No. 33	1959年8月

6 所得・貯蓄・投資の定義	経済セミナー No. 35	1959年9月
7 所得・貯蓄・投資の均等と乗数	経済セミナー No. 36	1960年10月
8 資本の限界効率	経済セミナー No. 37	1959年11月
9 流動性選好と利子率	経済セミナー No. 38	1959年12月
10 資本・利子・貨幣の本質	経済セミナー No. 39	1960年1月
11 ケインズ革命の核心	経済セミナー No. 40	1960年2月
12 ケインズの社会哲学	経済セミナー No. 41	1960年3月
13 ケインズ理論の意義と限界	経済セミナー No. 43	1960年5月
ケインズ経済学の文献課題	経済セミナー No. 55	1961年4月
物価は操作されている	世 界 186号	1961年6月
日本の高度成長政策の位置と帰結	経 済 評 論 11巻1号	1962年1月
物価と賃金	講座“現代”5「資本主義の再編成」岩波書店	1963年1月
郵便一限界にきた公共事業	世 界 207号	1963年3月
二重構造論の展望と反省	「日本経済の基礎構造」春秋社	1963年5月
物価問題の解き方—ディマンドブルか構造変化か—	エコノミスト 40巻18号	1962年5月1日 (臨)
流通機構	世 界 215号	1963年11月
変革の意志を示せ	経 済 評 論 12巻12号	1963年12月
連載講座 経済学を学ぶ前に (長率男との共著, 対談式)		
1 経済学への興味	経済セミナー No. 94	1964年4月
2 経済学への接近	経済セミナー No. 95	1964年5月
3 経済学の視点	経済セミナー No. 96	1964年6月
4 経済学の展開	経済セミナー No. 97	1964年7月
日本経済の論理と行動	世 界 233号	1965年5月
ケインズ	経済学史講座3「経済学の展開」第2編 第3章 有斐閣	1965年6月
シュンペーター	同 上 第4章	同 上
経済政策における保守と革新	世 界 244号	1966年3月
資本自由化と経済ナショナリズム	エコノミスト 44巻43号	1966年10月20日 (臨)
現代都市と土地問題	世 界 264号	1967年11月
巨視的動態論	近代経済学講座4「成長と循環」有斐閣	1968年4月
変革と修正—比較経済体制論への一視覚	世 界 270号	1968年5月

医療問題の経済的性格	経 済 評 論 18巻14号	1969年12月
70年代の日本経済	「70年代の日本経済」 朝日新聞社	1970年 5 月
展開：政策体系としての理論の確立	経済学全集 3「経済学史」 筑摩書房	1970年 6 月
経済学は現実にこたえうのか	世 界 308号	1971年 7 月
現代経済と福祉	世 界 323号	1972年10月
経済学と現代	エコノミスト 50巻55号	1972年12月26日
追い込まれたイルカ	世 界 328号	1973年 3 月
連載講座 経済学を考える		
第1回 経済学の転換期か—市場の中 を見る 2つの目と外部性の脚光	経済セミナー No. 215	1973年 4 月
第2回 外部性問題—公害の経済学(1)	経済セミナー No. 216	1973年 5 月
第3回 同上一公害の経済学(2)	経済セミナー No. 218	1973年 7 月
第4回 同上一公害の現実	経済セミナー No. 219	1973年 8 月
第5回 公共料金の決定(1)—平均費用 原理と限界費用原理	経済セミナー No. 220	1973年 9 月
第6回 同 (2)—混雑税論	経済セミナー No. 222	1973年10月
第7回 同 (3)—混雑税論の展開	経済セミナー No. 223	1973年11月
第8回 公共財について	経済セミナー No. 226	1974年 1 月
第9回 生存権から生活権へ	経済セミナー No. 227	1974年 2 月
第10回 現実の矛盾と理論の倒錯 —むすびにかえて	経済セミナー No. 228	1974年 3 月
転換への視点	世 界 340号	1974年 3 月
独禁法改正素案を評価する—物足りぬ寡 占政策	エコノミスト 53巻12号	1975年 3 月18日
スト権と経営形態	経済セミナー No. 252	1976年 1 月
国鉄の破産に提言する	世 界 364号	1976年 3 月
道義的批判から制度改革へ	世 界 372号	1976年11月
強きを助けるもの	世 界 383号	1977年10月
科学としての経済学	経済セミナー No. 281	1978年 6 月
中産階級にのしかかる税負担の不公平 —不公平税制と有効需要政策	経済政策基本問題懇談会 報告書「今後の経済政策 のあり方」総合研究開発 機構	1978年12月
経営形態と交通—1. 真の経営形態と問 題とは何か 2. 港湾経営における行 政と効率の矛盾	運輸経済研究センター 『交通サービスの公共性 とその経営形態に関する 研究調査』	1979年 3 月
体制化された経済学	世 界 494号	1979年 7 月

熱力学でみた省エネルギー	月刊“NIRA”経済総合 開発機構	1979年8月
エネルギー問題をどうとらえるか	世 界 406号	1979年9月
医学における技術進歩の状況とその経済 的影響(北村元仕との共著)	「増大かつ多数化する医 療需要に対する医療組織 の対応に関する研究」総 合開発機構助成研究	1980年5月
新鋭医療機器普及の実体	同 上	同 上
株式会社をめぐる現実と法(1)―(3) (河本 一郎との共著)	商事法務研究会「商事法 務」884, 885, 886号	1980年10―11月
あるべき行政改革の主攻点	世 界 435号	1982年2月
三公社活性化への提言	エコノミスト 60巻7号	1982年2月23日
上 国鉄蘇生の為の3つの課題	エコノミスト 60巻8号	1982年3月2日
下 電電専売民営化論の虚実	エコノミスト 61巻2号	1983年1月11・ 18日(合)
国内市場重視の新しい拡大政策を	世 界 446号	1983年1月
社会主義経済体制の悲劇	世 界 449号	1983年4月
経済政策における現実性	別冊 経済セミナー ケインズ生誕100年	1983年4月30日
比較ケインズ学5 ケインズとシュンペ ーター―一九世紀の社会科学と二〇世 紀の経済学	エコノミスト 62巻18号	1984年5月1・8 (合)
都市・交通問題解決への第三の道―新し い公共政策を求めて	経済学論集(中央大学) 第26巻1・2合併号	1985年3月
ケインズ再考	世 界 474号	1985年5月
技術革新の現在	エコノミスト 63巻25号	1985年6月11日
政策提言シリーズ1 国鉄:地方線分離 による活性化が不可欠―再建監理委は 方向を見誤るな 幹線分割では国鉄は 救えない―“監理委路線”を吟味する (山村喜晴との討論)	エコノミスト 63巻30号	1985年7月9日
同シリーズ2 摩擦対策:円高へ三段階 の資本流出抑制策を―まず生保資金へ の持ち高規制導入 マージャンの世界 からゴルフ的ルールへ―自らにハンデ ィを課す決意こそ(後藤基との討論)	エコノミスト 63巻34号	1985年8月6日
同シリーズ3 財政再建:付加価値税導 入と大借換え政策の断行を一放置すれ ば国債の日銀引き受けは不可避 経済 理論と現実性のはざま―政治力学を配 慮した付加価値税の提案(歌川令三と の討論)	世 界 476号	1985年7月
資本主義はいかに変わったか	「先端技術と日本経済」 日本評論社	1985年8月
技術革新の現在と意味		

税制改革の基本的視点（共同研究の報告）	「長期的な税制のあり方に関する研究」総合研究開発機構	1985年9月
わが国における電気通信事業の今後	日本地域開発センター 「電気通信事業の今後の方向に関する研究」	1986年2月
首都圏における交通問題と交通政策	「日本交通学会年報」1985年	1986年3月
比較経済学序説	経 済 論 叢 137巻3号	1986年3月
経済学と都市政策	「経済学で現代を読む」大阪書籍	1986年5月
ソフト医療機関の提唱	財団法人沖中記念成人研究所「望ましい医療体制の実証をめざして」	1986年5月
巨大技術の経済学	世 界 490号	1986年7月
J R（旧国鉄）を再分割せよー依然として残る3つの課題	エコノミスト 65巻20号	1987年5月5・12日（合）
静かなる狂乱	世 界 503号	1987年7月
現代経済学研究の課題	経 済 評 論 36巻10号	1987年10月
荒海に船出する日本経済	世 界 511号	1988年1月
国鉄・電電改革とは何だったのか	世 界 515号	1988年5月
地方分散が東京集中を招く	世 界 517号	1988年7月
税制改革はどうあるべきか	世 界 520号	1988年10月
消費税とリクルート	世 界 526号	1989年4月
日米構造協議に異議あり	世 界 534号	1989年11月
日本の物価はなぜ高いか どうしたら安くなるか	月刊 国 民 生 活	1990年3月
都留重人におけるマルクス主義の影響	思 想 の 科 学 463号	1990年3月

欧文論文

A structural analysis of conservative and progressive forces in Japan.	<i>Journal of Social and Political Ideas in Japan.</i>	Aug. 1966
Jobs lost and gained through micro-economics.	<i>Japan Echo</i> , Vol. 12, No. 3.	Autumn 1985
Spéculation immobilière à Tokyo : comment arrêter l'escalade ?	<i>Cahiers du Japon</i> , Ann. 9°, No. 34.	hiver 1987
Tokyo's growing pains.	<i>Japan Echo</i> , Vol. 14, No. 3.	Autumn 1987
Quelle décentralisation pour la capitale ?	<i>Cahiers du Japon</i> , Ann. 10°, No. 38.	hiver 1988

Coming to terms with the Tokyo problem.	<i>Japan Echo</i> , Vol. 15, No. 3.	Autumn 1988
Shoddy taxes, shady politics.	<i>Japan Echo</i> , Vol. 16, No. 2.	Summer 1989

対談・座談会等

高成長は国民生活を豊かにするか(有沢広巳, 美濃部亮吉, 長州一二, 宮崎勇との座談会)	世 界 179号	1960年11月
二重構造論の再検討(篠原三代平との討論)	経 済 評 論 10巻6号	1961年6月
経済白書の批判的解説(宮沢健一, 藤野正三郎との座談会)	エコノミスト 39巻30号	1961年7月25日
日本経済の成長と均衡(長州一二, 大来佐武郎, 宮崎義一との討論)	世 界 194号	1962年2月
戦後経済学の足あと(佐藤金三郎との対談)	経済セミナー No. 103	1965年1月
経済白書の盲点をつく(中村秀一郎, 富塚文太郎, 矢野寿雄との座談会)	エコノミスト 41巻30号	1964年7月30日(臨)
S39年度経済白書特集号 検討と批判 過剰生産か需要不足か(長州一二, 鎌倉昇, 竹中一雄との座談会)	経済セミナー No. 110	1965年8月
恐慌一現代資本主義論の立場から(有沢広巳, 今井則義, 富塚文太郎, 吉富勝との座談会)	経済セミナー No. 115	1965年12月
現代における価格と価格政策(川口弘との対談)	経 済 評 論 16巻5号	1967年5月
国際的条件とケインズ政策の限界(宮崎義一との対談)	経 済 評 論 17巻4号	1968年4月
マルクス経済学と近代経済学(長州一二, 福岡正夫との座談会)	経済セミナー No. 145	1968年4月
戦後日本経済分析の成長と展望(シンポジウム 司会担当) 近代経済学(報告 安場保吉, 討論参加 内田忠夫, 馬場正雄) マルクス経済学(報告 古川哲, 討論参加 長州一二, 高橋誠)	エコノミスト 47巻53号	1969年12月2日
都市計画を点検する(井出嘉憲, 川上秀光, 加藤晃, 小林陽太郎, 篠原一, 高橋裕, 中村隆英, 松下圭一, 宮本憲一との座談会)	世 界 294号	1970年5月
書評のあり方(大岡信, 河合秀和, 杉浦明平, 遠山啓, 山住正己との座談会)	世 界 300号	1970年11月
市民運動は産業社会を変えうるか(清水慎二, 清水嘉治, 高島通敏との座談会)	エコノミスト 49巻16号	1971年4月25日(臨)

問われる日本の国際化路線（河野健二， 斉藤孝，大江志乃夫とのシンポジウム， 司会担当）	エコノミスト	50巻18号	1972年4月27日 （臨）
経済学の新しい地平—既成の理論体系を どうのりこえるか（長州一二，岩田昌 征との座談会，司会担当）	経済セミナー	No. 202	1972年5月
拡大する病根をどうとらえる（新野幸次 郎，山田浩之との座談会）	エコノミスト	51巻1号	1973年1月2・ 9日（合）
現代都市政策の可能性（篠原一，松下圭 一，宮本憲一との座談会）	世界	326号	1973年1月
現代インフレの政治力学（高島通敏，村 上泰亮との座談会）	エコノミスト	51巻16号	1973年4月22日 （臨）
特集・企業の社会的責任をつく 法人に プライバシーはない（相良竜介との対 談）	エコノミスト	51巻21号	1973年5月22日
七十三年論壇回顧（I）追求しきれる現 実の重み（高瀬善天，見田宗介，田中 仁彦との座談会）	エコノミスト	51巻54号	1973年12月25日
社会科学50年の証言39，40（都留重人との インタビュー）			
現代資本主義の分析視角	エコノミスト	52巻19号	1974年5月7日
新たな政治経済学の構築	エコノミスト	52巻20号	1974年5月14日
新しい自由経済への道—市場機構の蘇生 を考える（渡部経彦との対談）	エコノミスト	52巻34号	1974年8月17日 （臨）
戦後思想の潮流（座談会）			
1 5年周期の波動（城塚登，判沢弘， 山田宗陸）	エコノミスト	52巻46号	1974年11月5日
2 意志決定の日本的構造（同上）	エコノミスト	52巻48号	1974年11月12日
5，6 ナショナリズムの系譜1，2 （同上）	エコノミスト	52巻51， 52号	1974年12月3， 10日
7，8 崩壊した新教育の理念1，2 （同上）	エコノミスト	52巻53， 54号	1974年12月17， 24日
9—11 基本が欠落した生活の隆盛1 —3（城塚登，判沢弘，多田道太 郎，山田宗陸）	エコノミスト	53巻1— 3号	1974年12月31日 ・1975年1月7日 （合），14，21日
12，13 文化・文明論の軌跡1，2 （城塚登，判沢弘，山田宗陸）	エコノミスト	53巻4， 5号	1975年1月28日， 2月4日
14—16 国家と民衆の連関1—3（城 塚登，神島二郎，判沢弘，山田宗陸）	エコノミスト	53巻6， 8，9号	1975年2月11， 18，25日
17，18 七〇年以後1，2（城塚登， 判沢弘，山田宗陸）	エコノミスト	53巻10， 11号	1975年3月4日， 11日
31—33 経済思想 マルクス経済学1 —3（佐藤金三郎，大雄一）	エコノミスト	53巻25— 27号	1975年6月10， 17，24日

34—36 経済思想 近代経済学(新野幸二郎, 村上泰亮)	エコノミスト	53巻28, 30, 31号	1975年7月1, 8, 15日
54—55 体制の思想3—4 官僚の思想①, ②(天谷直弘, 草柳大蔵)	エコノミスト	53巻51, 52号	1975年11月18, 25日
現代都市と政治(松下圭一, 宮本憲一との討論)	世界	356号	1975年7月
経済学のここがわからない対話篇(永井進との対談)			
理論と政策の日本的土壌 1	経済セミナー	No. 250	1975年11月
2	経済セミナー	No. 251	1975年12月
戦後産業史への証言第19—41回 産業政策1—23			
産業政策1—3 佐橋滋へのインタビュー	エコノミスト	54巻21—23号	1976年5月11, 18, 25日
4—8 林信太郎へのインタビュー	エコノミスト	54巻24—28号	1976年6月1, 8, 15, 22, 29日
9—10 中山素平へのインタビュー	エコノミスト	54巻30, 31号	1976年7月6, 13日
11—12 永野重雄へのインタビュー	エコノミスト	54巻32, 33号	1976年7月20, 27日
13—15 有賀美智子へのインタビュー	エコノミスト	54巻34, 35, 37号	1976年8月3, 10, 17日
16—17 熊谷典文へのインタビュー	エコノミスト	54巻38, 39号	1976年8月24, 31日
18—19 今井善衛へのインタビュー	エコノミスト	54巻40, 41号	1976年9月7, 14日
20—23 泉美之松, 吉国二郎, 高文木雄との座談会	エコノミスト	54巻42—45号	1976年9月21, 28日, 10月5, 12日
現代社会を考える 家康, 徳球, 自然改造(高橋裕, 華山謙との対談) 1	経済セミナー	No. 262	1976年11月
2	経済セミナー	No. 263	1976年12月
企業風土論(三戸公との対談) 1	経済セミナー	No. 267	1977年4月
2	経済セミナー	No. 268	1977年5月
日本農業はどう変わるか(安達生垣, 今村奈良臣, 坂本慶一, 玉城哲, 古田武彦との座談会)	世界	378号	1977年5月
攻撃される円(加瀬正一, 吉富勝との座談会)	世界	386号	1978年1月
流通革命の日本的風土(新風土論)(杉岡頌夫との対談)	経済セミナー	No. 276	1978年1月
企業と法の日本的風土(西村忠範との対談)	経済セミナー	No. 277	1978年2月

欧米経済社会考（助川顯，長幸男，平田清明との座談会）	世 界	389号	1978年4月
経済学の風土と歴史の教訓（尾上久雄との対談）	経済セミナー	No. 280	1978年5月
経済学を学び始めた頃（尾上久雄，佐和隆光との対談）	経済セミナー	No. 280	1978年5月
「不確実性の時代」考（西村周三との対談）	経 済 評 論	27巻6号	1978年6月
銀行行政の緊急課題は何か（徳田博美との対談）	エコノミスト	56巻23号	1978年6月12日（臨）
忘れさられた経済学者（宮崎義一との対談）	経 済 評 論	27巻8号	1978年8月
経営体としての新聞（北田正志との対談）	世 界	394号	1978年9月
金融界最大のテーマは何か（川口弘，庭山慶一郎との座談会）	エコノミスト	57巻1号	1978年12月26日・1979年1月2日（合）
80年代に向かう日本経済（宮崎勇との対談）	経済セミナー	No. 282	1979年1月
最新中国事情（宮川公男との対談）	経済セミナー	No. 300	1980年1月
フリードマン経済学を斬る（伊賀隆との対談）	経済セミナー	No. 311	1980年12月
保守と革新のはざまに 変革の新風に日本はどう対処するか（平田清明との対談）	エコノミスト	59巻26号	1981年7月5日（臨）
ゼロサム化する日本経済（辻村江太郎との対談）	エコノミスト	59巻49号	1981年11月30日
日本的企業社会の行方（伊賀隆との対談）	経済セミナー	No. 323	1981年12月
現代医療経済の問題点（紫芝良昌，西村周三との討論）	世 界	439号	1982年6月
老後保障の俗説を排す（地主重美，高山憲之との討論）	世 界	439号	1982年6月
経済学と社会文脈（佐和隆光との対談）	経済セミナー	No. 330	1982年7月
大学教育の基本を問う（隅谷三喜男，なだいなだとの討論）	世 界	441号	1982年8月
技術開発と私有の論理（赤木昭夫，道家達将との討論）	世 界	443号	1982年10月
公共投資の政治経済学（葦山謙，中西準子との討論）	世 界	445号	1982年12月
デパート・スーパーの経済学（堤清二との討論）	世 界	451号	1983年6月
どこへ行く これからの日本（多元討論 総合司会担当）	エコノミスト	61巻24号	1983年6月20日（臨）

科学と技術の進歩を問う (西村肇, 松本寛)

日本的大衆社会を超えて (中岡哲郎, 西部邁)

2つの経済体制に共通するジレンマ (佐藤経明, 青木昌彦)

人間シュンペーター (都留重人, 金指基一司会との座談会)	別冊経済セミナー シュンペーター再発見 100周年記念	1983年7月30日
59年度予算を考える (丸山英人との討論)	世界 461号	1984年4月
『一般理論』とは何であったのか (浅野栄一との対談)	経済セミナー No. 372	1986年1月
現代経済学の課題 (対談)		
①経済学はこれでよいのか (竹内 啓)	経済セミナー No. 380	1986年9月
②新古典派経済学への挑戦 (塩沢由典)	経済セミナー No. 381	1986年10月
③マルクス経済学の新天地 (本山美彦)	経済セミナー No. 383	1986年12月
④エコノミストと経済学者 (竹中一雄)	経済セミナー No. 384	1987年1月
⑤経済学は役に立つのか (角本良平)	経済セミナー No. 386	1987年3月
⑥日本の経済学者と経済学教育 (新野幸次郎)	経済セミナー No. 388	1987年5月
日本は21世紀のパラダイムをどう描くか (島田晴雄との対談)	エコノミスト 68巻19号	1990年5月1・8日 (合)
戦後体制のルールが問われている (佐々木毅との対談)	世界 543号	1990年7月
われわれは「日本」をこう説明する (河合隼雄, 野田宣雄, 矢野陽とのシンポジウム)	中央公論 1261号	1990年8月

訳 書

J. ロビンソン『マルクス主義経済学の検討』(都留重人との共訳)	紀伊国屋書店	1956年2月
カレツヤ『経済変動の理論』(宮崎義一との共訳)	新評論社	1958年9月